

第2回

オリエンテーション _ 交流しながらまち歩き

(1) プログラム

日 時 | 5月12日(日) 13:00 ~ 16:00

会 場 | 江東区役所7階 第71~73会議室

内 容 | 交流しながらまち歩き

- ・グループに分かれて交流しながら、区役所周辺のまち歩きをしました。

タイムテーブル |

13:00(80分) **【まち歩き】**

- ・説明
- ・グループ内で自己紹介(所属と名前)
- ・グループメンバーと交流しながらまち歩き

14:20(10分) ~休憩~

10:55(50分) **【グループで意見交換】**

- ・初めて知ったこと、印象的だったこと

15:20(30分) **【発表】**(発表3分×5G)

15:50(10分) まとめ、事務連絡、アンケート記入

16:00 終了

(2) 交流しながらまち歩き

●グループ内で自己紹介

- ・必要なお手伝いなどがあれば、共有してください。

●まち歩きのポイント

- ・グループメンバーは一緒に行動してください。
- ・14:20 分に会場に戻ってくるように、時間を確認してください。
- ・飲み物を買ってください。どこで買うかは自由です。グループメンバー全員が同じ場所で行わなくもいいです。別の場所で行う人がいる場合も、別々に行動するのではなく一緒に行動してください。(コンビニ、イースト 21 内の店舗など)
- ・次のものがまち歩きコースにあります。「だれのために、なんのために」あるのか、考えてください。メンバー内で利用している人や知っている人がいたら、お話を聞いてください。



(3) グループワークのまとめ

1 グループ

■入口の段差で、車いすやベビーカーは入れない

- ・各店舗入口の段差が大きい。道路からスムーズに入れる（商店）入口が理想。
- ・階段のあるお店にも入りたい。

■入口にスロープがあっても、困ること

- ・コンビニの入口にはスロープがあり店内に入れたが、通路に商品があちこち置いてあり、車いすでは通れなかった。休日で客が少ないから品出しをしていたのかもしれない。
- ・コンビニの通路は狭いことが多い。

■コミュニケーションボードがあるといい

- ・店にコミュニケーションボードがあると良い。
- 準備するだけでなく、店員が使えるように。

■坂が危険

- ・仙台堀川にかかる橋が急だった。迂回のスロープも使いづらい。
- ・橋の周りの道が急な坂。

■ちょっとした段差が危険

- ・平らな道でも小さい段があるとつまづきそう。車いすも不便。
 - ・継ぎ目やタイルの浮きが危ない。タイルは雪などで滑ることもある。アスファルトの方が良い？
- アスファルトは夏暑い。東京オリンピック・パラリンピックで、路盤を涼しくする取り組みがあったが、結局道半ばで止まってしまった。

■声を出さずに注文できるか？

- ・声を出さずに注文できる店はあるか？
- 慣れている店は、注文できる。
- ・うどん店が注文方法がわかりにくい。めんの硬さや大きさ、種類など口頭でやりとりしている。
 - ・食券システムがあっても、口頭でのやりとりが生じることが多い。
 - ・注文したものができて呼ばれても、聞こえない。
 - ・席に注文したものが届いた時、口頭で説明されたけど商品がわからない（例えば、レモンサワーとグレープフルーツサワーは見たり、匂いだけではわからない）。
- 「聞こえない」と伝えと、店員が注文した飲み物一つ一つに商品名を書いた紙を貼ってくれたり、注文票を指さしながら教えてくれたこともある。
- ・タブレットでの注文は、高齢者や視覚障害者は注文しづらい。

■道路交通法の遵守を！！

- ・役所から歩道に出るときに、見通しが悪い所がある。樹木の間から人や自転車が飛び出すことがあり危険。カーブミラーを設置するなどできないか。

■信号での不便さ

- ・葛西橋通りと四ツ目通りの交差点の横断歩道の信

号は、青の時間が短い。

- ・個別の信号の延長は難しい。中央で制御している。
- ・視覚障害者用のボタンを押すと時間延長ができる。
- ・音で視覚障害者用の装置があると知らせようになっているが、音が小さく視覚障害者が気づかないことがある。

2 グループ

■区役所にも不便なところがある

- ・区役所 1 階入口に点字ブロックが無い、区役所 1 階の入口が分かりづらい。
- ・区役所 2 階入口までの点字ブロック誘導の先が長い、階段になっているところが怖い。
- ・区役所でシグナルエイドが鳴らない。
- ・外階段は中央にのみ手すりがあるが、片側まひなどでバランスがとりづらい人には壁側にもほしい。
- ・駅方面からくるとどこからアプローチすればよいか分かりにくい。
- ・区役所 1 階の入口が暗く、特に休日は入口がわかりにくい。

■商業施設にも危ないところがある

- ・デザイン性を重視した斜めに切られた階段は、まっすぐ歩けなくて危ない。子どもも危ない。
- ・歩く導線に点字ブロックがあると良い。
- ・コンビニの場所が分かりづらい。

■自販機で買えない

- ・視覚障害者は、自販機を発見できない。夏は「ブーン」という音がするので推察できる。
- ・点字はおつりとお金を入れるところだけに記載。飲み物の種類はわからない。タッチパネルの自販機はもっと困る！

■スーパーマーケットは買いづらい

- ・広くてどこにモノがあるのか分からない時、聴覚障害者は店員に尋ねるのに苦労している。筆談での対応が難しいこともある。セルフレジ操作が分からない時も、聞くのが難しい。
- ・レジの人がマスクをしていると、「袋入りますか？」などの声かけが分からない。
- ・視覚障害者は、レジに並びたくても列の最後尾が分からない。サービスカウンターの場所もわからず、声かけができない。
- ・スタッフが外国人だと、質問に答えてもらえないことがある。
- ・スーパーで店舗スタッフがお手伝いが必要な人にサポートしてくれるシステムがあったらうれしい。
- ・「お困りごとはありませんか」と聞いてくれるスタッフがいると良い。ウロウロして「お困りごとはないですか」と声を出している。銀行などのサービススタッフのような人。
- ・スーパーのサービスカウンターを、百貨店のように入口に置くと良い。

■横断歩道で見守る人

- ・スーパーだけでなく横断歩道にも「緑のおばさん」のようにまちの人を見守ってくれたら嬉しい。

■道での気づき

- ・エスコートゾーンは音響信号機のあるところにはかない。
- ・歩道を歩いている時に、パトカーの音が聞こえず気づかないことがあった。

■ユニバーサルデザインの難しさ

- ・タッチパネル方式は、多言語などにできる良さはあるが、視覚障害者には操作が難しい。
- ・歩道と車道の段差は、ある方が良い人となない方が良い人がある。

3グループ

■歩道の安全性について

- ・西側の歩道は狭くて勾配や凹凸があったが、右側は広くて歩きやすかった。
- ・歩道が斜めだと車いすで通るのが危ない。
- ・交差点の歩道に、急勾配で危険な場所があった。
- ・段差や傾斜、障害物は自分が考える以上に多い。一方段差は、視覚障害者にとっての目印。

■点字ブロックについて

- ・交差点や横断歩道の点字ブロックの敷設が正しくない箇所が気になった。
- ・仙台堀川より北には誘導ブロックがなかった。
- ・建物の溝などが誘導ブロック替わりの目印になることがある。
- ・においや色々な情報もブラインドにとって重要。
- ・誘導用点字ブロックが直角ではなく、あいまいな角度で曲がると、混乱することがある。
- ・車道が怖いので自然と車道から遠ざかるように斜めに歩いてしまい、位置がわからなくなることがある。真っ直ぐ歩くためには誘導ブロックは大事。
- ・点字ブロック設置の考え方を知ると理解しやすい。

■建物スロープについて

- ・ファミリーレストランの入口には階段しかなかった。スロープがない店はある。

■その他

- ・ドラッグストアの棚と棚の間の通路が狭かった。
- ・区役所前などの信号には、音の信号があった。
- ・自分のまわりでは体が不自由な方がいなくて、誘導のしかたも初めてで良い経験になった。
- ・UDを考える時、街を知るのも大切。街には知らないものがたくさんある。

4グループ

■点字ブロックの意味を理解することができた

- ・2つの点字ブロックの違いがわかった。点状が警告ブロック、線状が誘導ブロック。
- ・横断歩道を渡るためにエスコートゾーンがある。

■音響信号の設置は少ない

- ・信号の数が多く割に音響信号の数が少ない。
- ・横断する方向で音が異なる。「ピヨピヨ」「カッコー」と同じ鳥なので分かりづらくないか。
- ・信号機の上に設置された拡声器から音が出ていた。目の見えない人が頼るものだとして初めて知った。

■横断歩道・交差点での気づき

- ・横断歩道を渡る時間が分かるのか。どの距離の交差点なら渡り切れるか判断がつかないのでは。
- ・視覚に障害があるが、到着した時に青信号の時は次を待つことにしている。
- ・急勾配の交差点や段差のある交差点があった。

■段差の捉え方の価値観に違いがあることを知った

- ・視覚障害者は段差を目印にして、車道と歩道の違いを判断している。段差がないと困る人もいる。
- ・車いす利用者と視覚障害者が共存できるように、歩車道境界の高さは2cmが基準。

■視覚障害者の方と一緒に歩く際のポイント

- ・風で周りの建物の状況を把握していた。
- 帽子やマスクをつけると感覚が鈍る（視覚障害者）。
- ・目の見えない人の歩くスピードが速かった。
- ・はじめて視覚障害者と一緒に歩いたが、意識せずに自然に歩いた方がいいと思った。
- サポートする時は、上りや下る時に斜めには歩いてはいけない（ガイド）。
- ・補助として歩く時の説明が難しかった。説明しすぎてしまった。何をどこまで説明すれば良いのか、最初は分からなかった。
- 階段は最後の一段で止まると分かりやすい（ガイド）。
- 周りの風景の色や形を教えてくれると楽しい（視覚障害者）。
- ・会話のあいづちは言葉でした方が良いと知った。無言でうなずいていたけど、声を出した方がいい。

■歩く際の周りの環境

- ・人や自転車スピードを出していて危なかった。狭い道でも人や自転車がビュンビュン通る。
- 音の響きや風の動きで察知している（視覚障害者）。
- 自転車ゾーンは、舗装材の材質が違えば分かるが境目がないので難しい時もある（視覚障害者）。
- ・スマホを見ながら歩く人が多く、ぶつかりそうで危なかった。
- 点字ブロックの上に立ち止まらないでほしい（視覚障害者）。

■買い物

- ・買物の時、視覚障害者を見たら声をかけてほしい。
- ・コンビニは狭いので声かけをしやすい

■言葉によるコミュニケーションが大事

- ・どんな時も言葉によるコミュニケーションが大事。
- 「大丈夫ですか？」よりも「お手伝いしましょう

か？探しましょうか？」と具体的な行動を提示して聞く方が良い（視覚障害者）。

■ゆめまーるについて知ることができた

- ・ゆめまーるでたくさんの障害者が働いていると知った。

5グループ

■まちには傾斜や勾配、段差がたくさんある

- ・勾配がきつく感じたところがある。思っている以上に、傾斜や段差が多かった。
- ・車いすのサポートをしたが、歩道に段差が多くて操作が大変そうだった。
- ・設備が中途半端で、使いやすいうえで使いにくい（階段に手すりがないなど）。
- ・急な階段では、手すりやスロープがないと厳しい。
- ・橋の歩道が狭かったり、橋の上り下りが急だった。
- ・スロープがあるだけでは行くことができない。高さや角度も検討すべき。

■下りは怖い

- ・歩行が不自由な方は、下りが怖い。前のめりになる。
- ・車いすも下りは気を遣う。

■歩道の自転車は危険

- ・自転車が怖い。歩道に十分な幅があっても怖い。
- ・電動自転車はスピードも出るし重さもある。自走の自転車とは別物になってしまった。

■買物するのに、手が届かない

- ・セルフレジは、車いすの人の手が届かない。
- ・身体障害者の方は、高いところは取れない。
- ・車いす使用者だが、商品も届くものは限界があり、諦めてしまう。

■バス停に音声案内がなかった

- ・バス停に音声案内がないことに気がついた。

■まち歩きは発見がある

- ・まちを歩くと障害者理解が足りないことがわかる。
- ・整備して終わりではない。使って意見を出して、アップデートをこまめにすることが大切。

6グループ

■弱視の方と一緒に買い物して気づいたこと

- ・金額表示が大きいと見やすい。ドラッグストアのプライスカードが大きくて見やすかった。
- ・弱視の人はガラス張りの店だと、どこが入口なのか分かりにくい。
- ルーベがないと買い物が出来ない場合がある。
- ランチメニューもカメラで撮って拡大して読む。
- 入口かどうか、玄関マットで判断することがある。
- 区役所の玄関はわかりにくい。
- ・弱視の方はどこにどの商品が置いてあるのか分かりにくく、冷蔵庫の音などを頼りにしていた。
- 冷蔵庫の性能が良くて音が小さいと、場所が分からないことがある。

- ・いろいろな音があり、横断歩道の音が聞きにくい。
- 夜は音が出ない信号もある。

■車いすの方と一緒に買い物して気づいたこと

- ・コンビニで買い物をするとき、車いすの動線としてカウンター近くが狭い。
- ・ドラッグストア内の通路の展示は、車いすにひっかかりそうだった。
- 狭い空間ではくると回れない。
- 値札が車いすにひっかかることがある。
- ・お店の入口に段差があると難しいので、入りたより入りやすいところになってしまう。
- コンビニのコーヒーマシンが使いにくい。
- 高いところのものは店員にお願いすることがあるが、嫌な顔をされることはない。
- ・車いすユーザーの方の買い物がごの持ち方が特殊でたくさんのものは買いづらいと分かった。

■注意をして見ると健常者にとっても危険な場所がある

- ・危険な所、場所が健常者でもありえる。コンビニ入口のスロープなど。
- ・立場によっては、バリアフリーのための設備もバリアになってしまう可能性がある。
- ・点字ブロックの段差でも車いすの人は、はまってしまう可能性がある。
- ・横断歩道の段差は車いすや杖の方には不便だが、視覚障害の方には必要なもの。
- 高齢者にとっては危険で、転ばないようにあえて点字ブロックを置かないという場合もある。
- 現状は妥協の結果。
- ・法律や官民の意識の違いなどバリアフリーの促進を阻む問題は多くある。
- ・公営道路と民営道路で差があり誘導の仕方が違う。
- ・どこまで実現出来るのか、お金や法律が問題。
- 近隣住民の意向を優先して問題が起きてからじゃないと対応されないことがある。
- ・統一感を持って環境を整備してほしい。
- ・区役所入口の誘導用ブロックは大回りになる。
- ・音声案内がある横断歩道の反対側にはないなど、一貫性がなく混乱しそう。
- 区役所に来る人が東陽町方面から来る前提の設計。統一して整備してほしい。
- ワンルートアクセスという考えがあるが、実際の利用では不利益が発生する。

■バリアフリーや当事者への理解

- ・バリアフリーに関して自由に言える環境が重要。
- 多くの人は言えないので、ハードを変えて意識を変えていくことが重要。
- ・当事者の困難を知ることが重要。
- ・その人の立場になって考えてみる、視点を変える、他者の靴を履く。
- ・点字ブロックのルールについてこれまで気にしていなかったことが分かった。
- こういったワークに価値がある。